



## 草津市ポンティアック市 姉妹都市提携40周年記念使節団



平成30年11月2日(金)～9日(金)の8日間、中学生大使7名を含む30名の友好使節団がポンティアック市を訪問しました。  
メンバーの訪問記を掲載します(P1～P3)

この度、草津市とポンティアック市姉妹都市締結40周年を祝う友好訪問団に参加させていただきました。

草津市民から15名が参加していただき、昨年にポンティアック市からの訪問団をホストファミリーとして受け入れていただいた方々も多く参加して下さって、大変ありがたく思っております。

現地で心温まる歓迎をしていただき、ブレンダさんやランディーさん等、昨年の訪問団の皆様とも再会することができて嬉しかったです。

特にブレンダさんは、中間選挙を控えて多忙なはずなのに、ホストファミリーとして受け入れていただき、全ての行事に参加してくださいました。無事に当選されて良かったですが、たいへんであったと思います。

学校の交流では、昨年草津を訪問してくれた中学生の生徒達が、ポンティアックの学校で日本からの生徒を迎えているとお世話にしてくれているシーンを見ると、とても心温まる交流ができていると感じました。

そして、各ホストファミリーがお互いにホームパーティを開催し、訪問しあうことで、現地でもホストファミリー同士の新たな交流が生まれているとお聞きしました。ホストファミリーの皆様にとっても感謝しております。

昨年と今年の双方の訪問で40周年を祝う記念事業が実施できたことをとても嬉しく思っております。今後もこの友好の絆をしっかりと維持する交流事業が継続できることを期待しております。

(KIFA会長 南 啓次郎)



# メンバー訪問記

使節団は全員ホームステイを体験され、国際交流の輪を広げられました。  
新しくポンティアック市役所に友好記念公園が開設されました。



## ポンティアック市を訪れて

この度、草津市・ポンティアック市姉妹都市提携40周年記念友好使節団として、ポンティアック市を訪ねることができとても良かったです。出発式の時の代表の方々の言葉を聴いて、しっかりと役目を果たさねばと、気のひきしまる思いがしました。

当地に着いたら、みんな大歓迎を受け、また交流のある人からハグをされ再会を喜び合いました。

紅葉した木々、緑の芝生、広大な土地が私たちを気持ちよく迎えてくれました。

ポンティアック市訪問は4度目で、カッターさん宅へのホームステイは3度目で、少し申し訳ない思いがしました。ある朝卵焼きを作り、みそ汁とで日本食を味わいました。窓辺に寄ってくる小鳥のさえずりを聞きながらの朝食はとても気分のよいものです。

今回は中学生が一緒だったので、小、中、高校、大学の見学ができ、よい勉強になりました。セキュリティがしっかりしていること、生徒は自由な雰囲気の中にも、厳しい所も見せられました。大学では、いろんな国の人の受け入れがあり、参加した中学生たちの将来への夢がふくらんだのではないかと思います。

夜は他のホームファミリー宅に何組かが集まりパーティをしてください、食事をしながら話し合い、よい交流ができました。みんな大きな声で話し、よく食べられます。

一番印象的だったのは、Kusatsu Friendship Gardenの落成式に参加し、素晴らしい日本庭園を見ることができたことです。フェニックスセンターの屋上の日本庭園に設置されていた2基の灯籠を市役所の庭に設置し、広く市民の方に見てもらえるようにされました。ティム氏が考えられたデザインの庭園に、新しく作られた球体モニュメントが置かれよい眺めでした。この庭園が姉妹都市の交流の要になるのではないかと確信しました。そして若い人の参加で、交流がますます発展し未長かつづいていくものと期待しています。

(KIFA会員 堀井 とみ子)



## 姉妹都市提携40周年記念友好親善使節団に参加して

この度、草津市役所から通訳として本事業に参加させていただきました。カナダのバンクーバーで生まれ育ち、国際社会の中で生活してきた私ですが、長年日本で暮らしているとその感覚も忘れ、11月2日に姉妹都市提携40周年友好親善使節団員として海を渡ること世界の大さを改めて肌で感じる事ができました。異文化に触れ、肌の色が違う人々と会話を交わし、お互いを理解し合うことで一人の人間として人生がそれだけ豊かになることに喜びを感じました。通訳として、団員と現地の方々との言葉の

壁を最小限にし、お互いの思いが伝わることで絆が一層深まるよう努めさせていただきました。日本人であることに誇りを持ちながら、お互いの文化の良いところを伝えたり、学んだりして、視野を広げていけたらと思います。2児の母として思うことは、これからの未来を担う子どもたちにも、世界に足を運び、現地の方々と触れ合い、これからの世界を大きく明るく、平和にしてほしいと感じました。

(草津市役所まちづくり協働課 栗野 美里)





# 第22回滋賀県ミシガン州友好親善使節団

平成30年9月5日(水)~9月14日(金)の間、友好親善使節団に草津市より参加された団員の滞在記です。

## 二度目のミシガン

ホームステイ先：ポンティアック市



二度目のミシガン。海外に一度も行ったことがなかった私は、一昨年、滋賀県ミシガン州友好親善使節団に参加しさまざまな事を肌身で体感し、多くのことを学ばせていただいた。そこでの経験は、閉鎖的だった私を大きく変え、その後のイギリス・オーストラリアと二度の留学に対して勇気をくれた。この一連の出来事を中心となってくれていた存在が、前回・今回と、二度も私のホストファミリーとなってくれたシールズ一家であった。今回この使節団に申し込んだ最大の目的は、このシールズ一家に一昨年の日本帰国後から今までの自身の体験を話し、一昨年よりずっと自分を成長させ続けさせてくれたことに感謝を伝えるということであった。

まず、ミシガンに着いてから三日間、同使節団の方とともに、スリーピングベアやウィスキー工場などミシガン州のあちこちを見て回り、前回とは一味違う体験をさせて頂いた。その後、滋賀県とミシガン州の姉妹都市提携50周年記念式典があり、そこでシールズ家の母・サブリーナさんと再会した。会場内で見つけてすぐにサブリーナさんと分かり、2年前と何ら変わりのない姿に大きな安心感を得た。久しぶりの再会に、サブリーナさんは涙を流して喜んでくれ、2年前には出来なかったお酒を共に楽しめた。また、その会場には、今回初めて会う一昨年上の息子・アーロンもいた。彼はとてもオープンで情に厚く面白い性格で、出会ってすぐにまるで実の兄弟のように打ち解けられ、四日間のホームステイで多くの時間を彼とともに過ごした。記念式典の後すぐに、アーロンに連れられ、アーロンの友達が主催するパーティーに行った。そこでは、日本ではまず味わえない雰囲気があり、多くの同世代の現地の人々と交流することができ、とても良い経験となったと思う。その後の三日間はテニスコートや室内サッカー場、クラブや以前より私が行きたいと頼んでいた学校など、ポンティアック市にあるあらゆる施設を、同じ草津市からの人々やそのホストファミリーと見回り、ポンティアック市への理解がより深まったかと思われる。なかでも、地元の小中高一貫校を訪ねることができたことは、教師になりたいと思っている私にとって、



とても有意義な時間となった。日本の学校との相違点を肌身で感じる事ができ、日本の教育システムに関して考える良い機会になったと思う。

ホームステイ二日目の朝、サブリーナさんと話す時間があつた。そこで、私は、「一昨年ここに来てから、私の考え方が大きく変わってイギリス・オーストラリアでの留学も経験できました。ここでの経験が私をより良くしてくれました。それには、あなたの存在が大きく関係しています。二度もホームステイを受け入れて頂いて本当に感謝申し上げます。」と、サブリーナさんに伝えた。すると、サブリーナさんは「そうだったのね。それはあなたにとって本当に良いことだと思う。私も二度あなたが来てくれて嬉しい。私たちはもはや家族。いつでも来てくれたら良い。あなたの家族と一緒にでも大丈夫だよ。」と、優しい言葉をかけてくれた。

五日間の周遊・三日間のホームステイと、過ぎる時間が一瞬であったが、とても充実したものとなった。特に、ホームステイにおいては、二度目のホームステイとあって、とても安心感があったが、新たな気づきもあった。それは、綺麗事かもしれないが、文化や言語が違っても"家族のような関係性"を築くことができるということである。私はこれからもこの関係性を大切に、これらの二度のミシガン州での経験を自分の原点として、人生を歩んでいきたいと思う。

(草津市 曾田 紳嗣)



## ホームステイを通して学んだこと

私がホームステイした先はアフリカ系アメリカ人の自宅であった。彼らは私たち日本人の瞳や髪色と同じ黒い皮膚を持つ。色の濃さは長い歴史の経過と共に変化しているが、彼らの祖先がアフリカ人であったことを見間違えることはない。私は初めて彼らと出会ったとき、初めて直接拝見した肌の色に驚いたものの、すぐに慣れた。肌の色など気にならず、違和感など忘れてしまうくらい彼らは素晴らしい人たちであった。

今回のホームステイで私が学んだことは黒人の歴史に関連する人種差別である。私のホストファミリーはアメリカとカナダの国境であるデトロイト川とチャールズ・H・ライト・アフリカ系アメリカ人歴史博物館に私を連れて行ってくれた。

ナイアガラ川には目の前のカナダを見つめる数人のアフリカ人の銅像があり、その下には「The gateway to freedom」という表題の文章が刻まれていた。ホストファミリーの祖先であるアフリカ人はアメリカに連行され、奴隷として扱われる生活を強いられた。アフリカ人は劣悪な環境から解放されるために奴隷制度が廃止されたカナダをめざし、川を渡って自由を得た。銅像は奴隷解放の象徴としてアメリカ側の国境だけでなくカナダ側の国境にも設置さ



れている。ホストファミリーと冷たい風が吹く中、ナイアガラ川に沿って歩きながら、私は奴隷解放の一部始終を拝聴した。

チャールズ・H・ライト・アフリカ系アメリカ人歴史博物館ではアフリカ人の発生からアメリカへ強制的に連行される過程、アメリカでの奴隷生活、そして奴隷解放と黒人差別撲滅への軌跡がリアリティのある人形や詳細な説明文と共に再現されていた。ホストファミリーが奴隷生活の情景を見ながらつぶやいた「私はこの光景を見るのが辛く、悲しい」という言葉を私は忘れられないと思う。

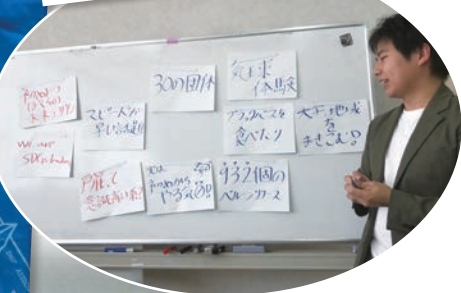
黒人差別はまだ完全になくなったわけではない。私のホストファミリーはその現実を私たち日本人にも知ってほしくて、自分たちの祖先の悲しい過去を紹介したのだと私は考える。そして彼らは私に日本では奴隷は存在するのか尋ねた。江戸時代から日本には長い間身分社会が存在し、関西では部落差別、北海道ではアイヌ民族差別などが挙げられる。さらに日本は戦争中、満州を開拓するために満州開拓団を派遣し現地の人々を強制移住させ、労働力として使っていたという。その後、満州開拓団がロシアから攻撃されたということに焦点を当てられることが多いが、日本が満州の人々に対して行なったことについても過去をなかつたことにはできない。

京都大学は個人間のゲノムの差はたった0.1%と述べている。ゲノムというのはその個人を形成する遺伝情報である。つまり、私と彼らの皮膚などの違いはたかだか0.1%にすぎない。大切なのは彼らの外見にとらわれずに人格や生活観に焦点を当てることである。私のホストファミリーは私たちの日本の暗い歴史も知ろうとしてくれた。私は彼らの人間性を尊敬し、彼らが日本を知ろうとしてくれたことに報いたいと思った。そのためには日本について学び、それを的確に伝えるために英語を学ばなければいけない。

(草津市 高山 日菜)







## パワフル交流市民の日

平成30年11月10日(土)に草津市立まちづくりセンターで開催された「パワフル交流市民の日」に参加しました。

11月10日土曜日に、草津市立まちづくりセンターにて、第19回「パワフル交流・市民の日」が開催されました。このイベントは、元気に頑張る市民団体が出会い、つながりを生み出すことで、市民のまちづくりに対する関心を高め、理解と参加を促し、明るく住みやすい活気溢れるまちづくりを進めるためのイベントです。当日は、草津市出身でロンドン五輪棒高跳び日本代表の我孫子智美さんもいらっしゃいました。我孫子さんのご活躍の話を伺って、またメダルにも触れさせていただき、市民の方々は、大いに楽しまれていらっしゃいました。KIFAの会場では、午前中にまずはじめ、立命館大学の中国人留学生の馬さんと魏さんが、太極拳の講師となつて、草津市で活躍する市民団体の方々と一緒に、交流を深めていました。太極拳に参加された方々は、満面の笑顔を浮かべて楽しそうに、ポーズをとり太極拳を体験していました。太極拳の後には、同じく立命館大学の中国人の留学生の単さんによる、二胡の演奏がありました。今までに、二胡の演奏を聴いたり、観たりする機会がなかった市民の方々も多く、演奏の後、単さんに不思議そうにいろいろ質問されていました。本当に美しい音色で、日本にはない音楽を楽しむ貴重な経験となりました。午後には、立命館大学の

学生の戸簾さんが、SDGsの入門について、分かりやすく教えてくださいました。国連サミットで採択された持続可能な開発のための2030アジェンダに記載された国際目標であるSDGsについては、まだまだ知らない方も多くいらっしゃいます。お子さんと共に、このSDGsの入門の話を聞いて、勉強してくださいご家族の方が、最後まで熱心に聞かれていたのは、大変素晴らしいと思いました。このイベントを通して、改めて交流の素晴らしさを、知る事ができました。今後このような素晴らしい交流を築いていけるよう精進していきたいと思つています。これからも宜しくお願いします。

(KIFA会員 沖 久美子)



## いもほり

多文化共生部会の新しい試みで、5月から草津市野路町の農園を借りています。「野路シェアファーム」と名付けたこの農園にさつまいもが実りました。

今年の5月からKIFAで菜園を始めました。立命館大学BKCの農業団体「ORGANIC」も協力してくれています。栽培していたサツマイモが立派に実り、10月30日に収穫しました。お天気にも恵まれて、和気あいあいとした雰囲気の中、収穫作業を進めることができました。色々な形のイモが収穫でき、愛着も湧いてきました。一緒に参加したインド人の女性がスコップを使って、一生懸命イモを掘り起こしてくれました。勢い余ってスコップで実を削ってしまうハプニングがありましたが、大豊作だったので問題なし！イモの茎をその場で実食！売っているイモを食べているだけだと味わえない体験ができました。後日、収穫したイモは、他のイベントの時に皆さんに食べて頂きました。ちなみに、インドでも芋は食べているそうです。芋は万国共通みたいです。私達新婚夫婦の大切な共同作業のひとつにもなりました。ありがとうございました。皆さん畑にも是非いらして下さい。



(KIFA多文化共生部会副部会長 廣瀬 正史&慶子(奥様))





**案内** いろいろな国で活躍する日本人!

キルギスへの想像の旅をしませんか? 2年間、JICA海外ボランティアの活動をされた、西田ちひろさんにキルギスのお話をさせていただきます。文化体験やキルギスの食べ物の試食も用意しています! ぜひお越しください!

- 日時: 平成31年1月18日(金)  
18:00~19:30(受付開始 17:45)
- 場所: アーバンデザインセンターびわこ・くさつ(UDCBK) 南草津駅前西友1F
- 参加費: 無料
- 講師: 西田ちひろ(学童保育支援員)
- 定員: 30名

**案内** 多言語カフェ(スピノフ企画 太極拳!)

立命館大学の中国人留学生(馬さん)を先生に迎え、中国語を交えながら、太極拳を学びます。寒くて凝り固まった体を太極拳でほぐしてみませんか! 参加をお待ちしています。

- 日時: 平成31年1月20日(日)  
13:30~15:30 (受付開始 13:15)
- 場所: 草津市立市民交流プラザ(フェリエ6F 軽運動室②)
- 参加費: 無料
- 持ち物: 動きやすい服装とタオル
- 定員: 15名

**案内** インターナショナル 酒蔵コンサート

今年のゲストはハンガリー出身のクラリネット・ソリストのコハーン・イシュトヴァーンさんとピアニストの榎本詩帆さんです! 道灌のお酒とソフトドリンク・お弁当を用意します! ぜひお越しください!

- 日時: 平成31年2月22日(金)  
18:30~20:00 (受付 18:00)
- 場所: 太田酒造2F(草津市草津3丁目10-37)
- 参加費: KIFA会員1,500円、一般2,500円
- 定員: 50名



上記3件とも申込みは草津市国際交流協会事務局までお願いします